

## 社会福祉大臣会議出席メモ 及びASEAN 5カ国の雑感

10月9日より1週間バンコクにおいてESCAP主催の第2回アジア・太平洋社会福祉・社会開発大臣会議があり、日本側首席代表として大石厚生政務次官が出席した。同次官はその後、その他のASEAN各国を駆け足で歴訪した。この間筆者は、同次官と同行し若干見聞する機会を得たのでそれを簡単にメモとして記しておきたい。

1. 大臣会議及びバンコク関係；大臣会議の前身は、1970年9月マニラでフィリピン主催により開かれた第1回アジア社会福祉担当大臣会議であるが、その後若干の経緯を経てESCAP主催の国際会議として第2回アジア・太平洋社会福祉・社会開発大臣会議を開催することがESCAP総会（1979年）で決定された。1980年代の社会福祉・社会開発の戦略・展望等について討論し、域内におけるこの問題の改善・促進を図っていくことがねらいであった。大石首席代表は、その演説において厳しい国際情勢下で域内各国が苦勞しているところ、大衆貧困の解消に向け、家族計画、生活環境改善、社会的弱者のための福祉対策等の当域内での重要性を指摘し、国連システムに基づく国際機関乃至プロジェクトのESCAP地域への支援強化を訴えた。

次に、バンコク及びタイについて触れてみる。10月8日同地到着時点では雨期は終了しておらず、降雨の影響で年中行事である洪水が市内各地で生じており、場所によっては、腰近くまでの水が出ており、衛生面が心配であるが洪水防止対策が先決である。バンコクは歴史を感じさせる街で

あるが、寺院は日本のそれと異なり色あざやかなものだ。道路交通量は非常に多く、朝夕など道路の容量をはるかに超え、パニックが常態となっている感をうけた。タイの面積は日本の1.4倍で人口約4,600万人、首都バンコクの人口は500万人を越す。ASEAN各国は難民を受け入れない方針をとっているが、定住・移住までの間、いわゆる難民キャンプに多数を抱えており、タイにおける人口第2の都市は一時はカンボジア国境の難民キャンプであるといわれた由。在タイ・日本大使館側から難民問題はASEAN地域での目下の最大の懸案であり、日本が受け入れ面等で役割を果たすことは広い意味での日本の安全保障の観点からも緊要の課題だ、という強い主張をきいたが、同様の意見はその後訪問した他のASEAN諸国の日本大使館でも繰り返された。

2. シンガポール；ASEANでは群を抜く近代国家だ。淡路島と同規模の国土に人口236万人があり、中国系（76%）、マレー系（15%）、インド系（7%）等の人種構成である。リー・クアン・ユー現首相の積極的緑化推進策もあって緑が豊富であり、また街並の整然たるところは東京以上だ。進出日系企業約990社、在留邦人数約14,000人。1,385人の児童を抱える日本人学校があるなど東南アジアにおける日本企業の最大の拠点である。医療事情は、病院数（国立13、私立12）、診療所数（国営191）、医師数（約1,850人）等で内容的にもまずまずである由。（注い国土故、人口抑制策が徹底され、第3子目（注この点筆者の記憶は完全に正確でない。）以降は税を課し、学校教育でも入学金・授業料が高額となるなど直接的措置がとられ併せて家族計画に関する各種事業が行われている。最後に、ホテルでタップ・ウォーターが飲めるのはASEANでは、ここだけであることを付記しておきたい。

3. ジャカルタ（インドネシア）；インドネシ  
（47ページへつづく）

(45 ページより)

アは、日本の5倍の国土に人口約1億2千万人であるが、ほとんどの人口はジャワ島(国土の7%)に集中している。ジャカルタの車の量も朝夕は容量をはるかに超える。医療事情は、まだまだといった状況だ(医師数約9千人など)。保健センターと呼ばれるいわば保健所のような施設が地域に点在し、一般的診療のほか家族計画プロジェクトの一環としての産児制限指導・教育活動の中核的役割を果たしている。従来から日本との関係が強く、経済援助、医療・衛生上の援助が巾広く行われており、現在も、例えば、看護指導者養成施設の建設が無償資金供与として行われているほか、技術協力として日本の看護チームが同国保健省教育訓練センターで指導中である等々。

4. クアラルンプール(マレーシア); 道路事情良好、緑豊富で、シンガポールを別格とすればASEANの首都の中でも最も整備されている。政治はマレー人が支配するが、経済はやはり華僑の方が得意である由。訪問した保健省では同国最高峰の心臓外科医である保健局長は、中央と13の州にそれぞれ中核的病院を配置し、それをとりまき地域医療機関が配備されている状況を説明しつつ、シンガポールを除けば目下ASEAN随一の医療体制であると誇らしげに語った。その後訪問した福

祉省では、アイシャ・ガニ大臣に会うことができた。連続8年間閣内にあり今や重鎮である。“日本では何故女性大臣がいないのか。マレーシアでは、155人の選挙による国会議員中、7人が女性議員で、うち2人が大臣である”と語っておられた。

5. マニラ(フィリピン); 他のASEAN諸国では仏教又は回教が主要宗教であるのに比し、フィリピンではキリスト教が圧倒的である。壮麗な教会があり他と異った趣きである。マルコス独裁体制下で長年の戒厳令下にあるが夜間外出禁止措置などもなく、近日発生したテロ行為に触発されたボディ・チェックの措置がホテル等の大衆施設においてなされていたのを除けば外見上は全く平静である。

フィリピンは、日本と昔から関係が深いが、マニラにはWHO西太平洋地域事務局があり、益々地域活動を重視する姿勢のWHOとの関係にかんがみても大事なところである。

以上ASEANを簡単にみてきたが、膨大なエネルギーを秘めていることは感じたが、日本など先進諸国が適切に援助してやることにより初めてそれが実を結んでいく地域のような。

(西井 英幸 厚生省大臣官房国際課)